

平成 3 1 年 第 5 回

富山県教育委員会会議録

I 開会及び閉会の日時

平成 31 年 4 月 8 日（月）

開会午後 4 時 15 分、閉会午後 4 時 58 分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1 番 鳥海 清司

2 番 山崎 弘一

3 番 町野 利道

4 番 藤重 佳代子

5 番 村上 美也子

教育長 伍嶋 二美男

IV 説明出席者

教育次長 布野 浩久

教育次長 坪池 宏

教育企画課長 広沢 久也

生涯学習・文化財室長 菊池 政則

教職員課長 坂林 根則

県立学校課長 本江 孝一

小中学校課長 近藤 智久

保健体育課長 東瀬 義人

V 傍聴人数 1 人

VI 会議の要旨

午後 4 時 15 分、教育長が開会を宣する。議事に先立ち、平成 31 年 4 月 1 日付け教育長就任に伴う伍嶋教育長の挨拶及び教育長職務代理者への山崎委員指名の報告に続き、伍嶋教育長から平成 31 年 4 月 1 日付け人事異動に伴う事務局幹部職員の紹介があり、その後、議事に入る。

1 会議録の承認について

（平成 31 年 3 月 4 日開催の平成 31 年第 3 回富山県教育委員会会議録）

会議録閲覧

伍嶋教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 議決事項

議案第 14 号 富山県立図書館条例施行規則一部改正の件

生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第 15 号 公立学校教員の採用の選考資格に関する規程の一部改正の件

教職員課長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

(1) 臨時代理について（富山県教育委員会事務決裁規程一部改正の件）

教育企画課長から説明した。

(2) 平成 31 年度富山県公立学校新規採用教員配置状況について

教職員課長から説明した。

4 その他

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

5 議事

○議決事項について

議案第14号関係

〔山崎委員〕

- ・西暦でも年号でも何でも良く、統一した表記にしないで良いということか。

〔生涯学習・文化財室長〕

- ・県の文書総務課の形をそのまま受けており、県全体でそういうふうに進めると伺っている。

議案第15号関係

〔鳥海委員〕

- ・社会人経験Bが新しく設置され、募集教科は工業、看護、福祉であることについて、工業は確保しにくいと聞かすが、募集人数や受検者数はどのくらいなのか。

〔教職員課長〕

- ・本年度の工業だけの数字についてはまた後ほどご報告させていただきたいと思うが、受検者そのものは確か10名に満たなかったと思う。その中で今年度については、採用者はいない。

〔鳥海委員〕

- ・受検者10名で採用者は0名ということか。

〔教職員課長〕

- ・そうである。正確な数については、また改めてご報告させていただきたい。

〔鳥海委員〕

- ・そもそも募集が数年に一人というような話を聞いたことがあり、募集人員の数が一番気になっている。

〔教職員課長〕

- ・今まさに第2次ベビーブーム世代対応の教員の退職の時期であり、この後も含めて退職が見込まれているが、工業の分野については受検者そのものが今非常に少ないような状況であることは言えると思う。

〔鳥海委員〕

- ・という事は確保できないという一番の原因は、受検者がいないということか。

〔山崎委員〕

- ・大学において、工学部や看護、福祉に関わる学部には所属している学生などは、教員を志して教職をとるといふ学生がもともと少ないのだと思う。特別免許状というのは免許状を有さない社会人に、特別といふ名称をつけた免許状を与えていくということだが、特別免許状を与える要件をしっかりとっておかないといけないと思う。先ほど試験を受けてもらうという話があったが、どのような試験か。

〔教職員課長〕

- ・教育職員検定というものを受けていただくことになっている。本人のそれまでの経歴確認や面接等もしっかりさせていただいた上で特別免許状を発行するかどうかは有識者の方のご意見も伺いながら最終的に決定することとしている。

〔町野委員〕

- ・こういう形で門戸を広げるといふことは、良いことだと思う。

〔教育長〕

- ・工業に限らず、最近では県内の有効求人倍率が2倍を超えたということで、事務系では0.6、0.7倍だが、その他の工業系や特に土木系になると多い所では6倍を超えてしまうということもあり、著しく人手不足の部分がある。山崎委員も言われたように教育学部以外を卒業する、いわば理工学部といったところではそもそも教員を志望する方が少ないということもあり、民間の理系の採用意欲が旺盛である反面、教員を目指す方がどうしても少なくなっているのは事実だと思う。また、どれだけ能力を有するかについては個々の細かな職種とか選考の際に今これまで経験されてきた職務の内容などをしっかりと判定させていただいて検査をして特別免許を出すかどうか。やはりそこは慎重にさせていただければと思う。

〔教職員課長〕

- ・先ほど質問のあった、昨年度実施した工業の試験の応募者は2名であり、採用は0名であった。

〔町野委員〕

- ・募集は何名だったのか。

〔教職員課長〕

- ・本県の場合、応募そのものの数については中学高校の教員全体の数字の応募状況しか公表していない。

〔鳥海委員〕

- ・募集が例年少なく推移してきていることで、要請する方がどうせなれないなと思って、応募がだんだん減ってきたのもあるので、その辺は毎年何人ずつ採れるという少し計画性をもってやってかないといけない。減ったものを増やすというのはなかなか難しいので、その辺を考えていかないといけないのではないかと思う。

〔山崎委員〕

- ・特別選考の障害者枠について、障害というと、いわゆる障害5種の肢体不自由、知的障害、病弱、聴覚、視覚の5つを連想するが、どのような分け方になっているのか。

〔教職員課長〕

- ・視覚、聴覚は身体障害に含まれる。

〔山崎委員〕

- ・これだけを見ると肢体不自由だけかと思った。

〔教職員課長〕

- ・それだけではない。

〔山崎委員〕

- ・そこに知的と精神障害、身体障害と書いただけで、それは分かるのか。

〔教職員課長〕

- ・要綱の細かいところには明記している。現在も身体障害という書き方になっているが、視覚、聴覚の方にも受検していただいており、実際に採用もさせていただいている。

○報告事項について

報告事項（2）関係

〔町野委員〕

- ・新規採用の中の新卒でない人は、学校卒業してから何年位経っているのか。その間は民間に勤めているのか。

〔教職員課長〕

- ・一番多いのは臨任講師。講師として学校現場に立っていただいている方で引き続き教員採用試験にチャレンジしていただくという方が最も多いかと思う。

〔町野委員〕

- ・それは教員浪人という感じなのか。

〔教職員課長〕

- ・いわゆる既卒採用になるかと思う。

〔町野委員〕

- ・少し言葉は悪いけど。狭き門だからね。

〔村上委員〕

- ・平均年齢は若い。

〔町野委員〕

- ・25、26歳くらい。大学院卒はだんだん増えているのか。学卒、院卒はあまり気にしていないのか。

〔教職員課長〕

- ・教員採用選考検査においては、学卒、院卒による違いはない。前回少し説明したが、大学院を出ると専修免許という免許が出るが、普通免許も専修免許も実際に教壇に立っていただく上では同じである。

〔山崎委員〕

- ・配置ということについての要望であるが、初任でいずれかの学校に配置されることになるわけだが、配置に際しては、職員の多い学校に配置していただけないのかなと思う。初任だとわからないことがたくさんあるが、非常に小さい学校となると教えてもらうこともできないので。

〔教育長〕

- ・いま山崎委員が言われたことは非常に大事な話だと思う。新規採用の方に最初から教えることはなかなか難しいことであるが、比較的大規模であれば担任でない方達がアドバイスをできる。そのことによって学校全体としてうまく教員の方の張り付きがバランスよくとれ、非常に安定した形になる。小中の場合には特に市町村の教育委員会の意向をよく踏まえて、よく調整して配置校について決めていただければと思う。

〔町野委員〕

- ・年々、新卒の人がいきなり担任となったり授業をしたりすることは、難しくなっているのか。

〔教職員課長〕

- ・現在、第2次ベビーブーム世代対応の教員の大量退職に伴う採用において、採用数の平準化を図るために300名程度の新規採用を行ってきている。当然その数に近い方々が退職しているので、新卒でそのまま担任に入っていただくことは、昔と同様に現在もやっている。そういう新任の先生方の指導ということで、初任者4名に対して1名の指導教員を巡回指導にあてているが、それだけではなく、やはり学校現場の中でいろいろフォローしていただくことも大事だと思う。採用数が多いので全ての新規教員を大きい学校にだけ配置するのはなかなか難しいが、先ほど山崎委員が言われたように教員の数が少ないと一人の教員の方々が指導する負担が大きくなるので、できるだけ学校現場に負担にならないような形で配置をしたいと考えている。

〔町野委員〕

- ・我々ものづくりの企業の場合、専門職の場合は採用してすぐ現場で仕事をさせるのはまず無理である。入ってから約3か月から半年、1年の研修期間をもうけて現場に入るケースが増えてきており、一般の事務職の場合なら採用して基本的な会社の仕組みだけを1週間くらいで教えて現場に投入するが、専門的な知識を必要とする人たちは大学の勉強だけでは役に立たないので、結局訓練をまた別にやる。質問にすると答えにくいだろうが、学校で勉強してきたものがそのまま学校で役に立つのか。

〔県立学校課長〕

- ・専門的なことは大学でいろいろ学んできているが、皆さんもご存知のとおり、自分が理解できることと人に教えるということはずいぶん違う。そういう意味では教えるに当たって自分がどこまで本当に理解していたのか、教える中で深めていくことになる。いきなり最初から10を知って10を教えることはできないので、どんどんその幅を広げていくことになるのだと思う。

〔小中学校課長〕

- ・本県では研修体系を少し見直し、初任者研修を初任者については課しているが、それを若手研と称して3年間かけて現場での研修であったり、学校の外に出た研修であったり、そういうことをしながら少しずつ実践を伴いながら授業力や指導力の向上に資すればという事でいま進めているところである。

〔町野委員〕

- ・教員として一人前になるのは何年くらいなのか。

〔小中学校課長〕

- ・人によっていろいろ変わってくると思う。

〔町野委員〕

- ・平均的には何年か。

〔小中学校課長〕

- ・私は中学校の経験があるが、一通りの学年を担当する、そして卒業生を出すということになると通常4～5年位かかる。中には10年位かけてやっとそのレベルに達するという感覚の方もいる。校種によってそれぞれ違うとは思いますが、やはり初任者の配置等を考えて異動を考えると4年～6年、そして2校目

に行ってもまた違う学校を経験する、例えば規模も違うし子ども達の実態も違う、そういった中で一人前になっていくものかなという感覚ではいる。

〔村上委員〕

- ・ストレスチェックを教職員の方はしているが、かなりストレスがかかっている。医療もそうだが、教育を取り巻く環境とか子ども達や親など、そういった問題が時代と共に変わってきているので、懇切丁寧な指導教官のような方がいないと多分初任者にとっては相当なリスクがあり、ストレスもかかると思うので是非潰れないようにお願いできればと思う。

〔教育長〕

- ・特に環境が変わると同じ負荷がかかっても、特に新規採用の方はいろいろな面で悩みも不安もあると思う。いま村上委員が言われたストレスチェックや、特に新規採用の教員の方については先輩教師、上司の教師、校長先生をはじめとしてつぶさに観察することと適度な声がけをし、ほどよい距離感でしっかり支えていくというような取組みは必要だと思っている。ストレスチェックについては、その効果や結果については保健体育課長もいろいろ活用し指導しているのか。

〔保健体育課長〕

- ・ストレスチェックについては、平成 28 年から県立学校は全ての学校で実施。市町村教委の小中学校においても順次実施され、今年度は学校規模に関わらず全市町村で実施予定。県立学校については、その結果を個人情報にも配慮し、組織全体の傾向等について資料を提供しており、各学校の衛生委員会で環境の改善等が協議されている。

〔藤重委員〕

- ・教員採用の県内出身者もしくは県内所縁の方とそうでない方の比率はどれ位の比率なのか。

〔教職員課長〕

- ・県内出身者を県内高校出身の方という形で整理すると、だいたい採用者 300 名に対して県内高校出身者は 253 名であるので、84.4%が県内出身の割合となる。

〔藤重委員〕

- ・高い。

〔教育長〕

- ・逆に県外の出身者が多い県はどこか。やはり近隣が多いのか。

〔教職員課長〕

- ・隣の石川県は教員採用試験の日が同じであるので、石川県出身の方はほとんど石川県を受検する。新潟県は試験日程が違うので併願する方は結構多い。平成 31 年度採用試験については新潟県の採用数がかなり多かったので、本県を受検し合格した方の中で辞退した方も結構いたが、それまでは新潟出身の方もそれなりに多いのではないかなと思っている。

〔教育長〕

- ・やはり県内出身者で需要数をまかなうのがかなり難しくなっているので、そういう意味では県外から来ている人たちの動向や富山県を目指す志望動機などを気にしながら、これから公募をかけていく時どのような地域をターゲットにするかとかいろいろな進め方が必要だと思うので、そこは是非データを分析して公募・採用の取組みを積極的にやっていただければと思う。

午後 4 時 58 分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。